

## 1 目的

枕崎市大塚地区は60年の歴史を持つ電照ギクの産地であるが、長年の連作によるほ場のリン酸過剰が産地の共通課題となっている。

また、葬儀形態の変化等により、首都圏を中心に、輪ギクの需要動向が急速に変化しつつある。そこで、課題解決活動や情報収集活動を実施し、今後の産地活性化へつなげる。

## 2 実施状況

### (1) 連作によるほ場のリン酸過剰対策の実施

ア 地域の課題となっているほ場のリン酸過剰対策として、関係機関と連携し、リン酸分を含まないオリジナル肥料の製作プロジェクトに取り組んだ。

イ 肥料の製造や配合についての研修を行い、地域のキク栽培に適した肥料の製作に向け2種類のサンプルを作り、既存肥料と比較した栽培試験を実施した。

ウ 実証結果を基に、関係機関とオリジナル肥料商品化に向けた検討を行い、既存肥料と同等以上の切り花生産が可能で、併せてコストを削減できるリン酸分を含まない新たな肥料の商品化が決定した。

### (2) 首都圏における輪ギク需要動向調査の実施

ア 株式会社大田花きにて、輪ギクの需要動向や花き取扱状況について調査し、相対・ネット販売の増加や供給減少を上回る需要減少の現状がわかった。

また、ディスプレイマム等新しいキク類の需要は高まっていた。

イ 葬儀用花祭壇や装飾花を製作している2社にて、首都圏での葬儀形態の変化や輪ギクの需要動向を調査し、葬儀規模の縮小や使用する花きの洋花化が進んでいる現状がわかった。

### (3) 新たなキク類であるディスプレイマムの導入検討

ア ディスバッドマムの試験栽培・販売を実施し、産地に適した品種や安定販売への課題が整理できた。

### (4) 地域への成果波及

ア 活動報告会を実施し、オリジナル肥料製作等のプロジェクト活動について地域の理解を得られた。

## 3 今後の課題、取り組み

- (1) 商品化したオリジナル肥料の産地への普及
- (2) 時代のニーズに対応した産地のあり方検討
- (3) 新たな産地課題解決に向けた活動の実施

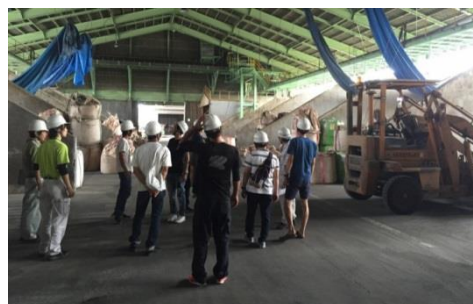


写真1 配合肥料製造研修



写真2 オリジナル肥料商品化検討会



写真3 花祭壇の輪ギク使用状況調査



写真4 ディスバッドマム栽培試験ほ場